

第一回 チベット問題国際フォーラム (Italia Torino)

トリノ宣言文

中華人民共和国に関する省察

中国の実情は、中国共産党が世界に喧伝している肯定的イメージとは、まったく異なりません。

あらゆるシステムのすべてのレベルで贈賄が繰り返され、構造は腐敗しきり、中国人民の大部分を占める農民の生活状況は、経済的、社会的、自然環境の破壊などでいよいよ悪化、貧富の差はいっそう激しくなっています。周知のごとく、著しい経済成長を遂げているにも関わらず、中国の大部分の労働者の生活環境は一向に好転せず、自由は規制されつづけたままなのです。

その結果、北京政府も公に認めているように、社会的な抗議運動が拡がり続けています。またその抗議運動には、非暴力で抵抗を続ける中国のスピリチュアルムーブメント『法輪功』も含め、労働者たちが自由な労働基準のための組合を設立するための闘争運動、また、東トルキスタン（新疆ウイグル地区）、内モンゴル自治区の中国植民地支配への抵抗運動をも加えなければならぬでしょう。

国際政治外交においては、政治的見地、あるいは経済的見地、また軍事的見地（中国の目もくらむほど著しい軍事予算の増加は、台湾武力攻撃への可能性をも予感させるものです）、と、どの見地から俯瞰しても、北京政府の態度はいよいよ攻撃的になってきています。

中華人民共和国の状況におけるチベット

この数年、チベットに関する中国当局の政策には何の変化もありません。むしろ、大勢の人々が好転への期待をよせるなか、さらに悪化しているという状況です。北京政府の打ち出す『西欧諸国に肩を並べる経済成長プラン』と呼ばれる政策に対し、チベット人は即物的な生産性をもたらさず、投資能力がないという理由で、チベット地域には漢民族が絶え間なく流入しています。いくつかの政府、各国際団体の要求、抗議にも関わらず、北京政府はチベットの人々の自由な市民権、宗教の自由を拒絶していく構えです。そして今日その状況に直面して、われわれは、分裂分子として強制収用所に収監されているチベットの農民や遊牧民を助けるために、手をさしのべることもできない非力を感じるに至っています。

すなわち、われわれはこれまでの全ての政治的外交が失敗であったことを確認するのです。

特に 18 年前、ダライラマ 14 世とチベット亡命政府によって選択された「ストラスブルグの提案」(1988 年 6 月) から、最近のチベットの国民の完全自治の権利 (チベットの人々は、「中国の 55 の少数民族のなかでより重要なグループの一人、であるダライラマ 14 世の、2006 年、3 月 10 日の声明」と呼んでいます) のための声明にいたるまで、中国政権を配慮した譲歩案にも関わらず、現実を好転させるためには何の効力もありませんでした。

つまり、大勢の人々が力説した、いわゆる双方の『話し合い』は、事態を少しも好転させることができなかつたどころか、チベット問題に確固とした解決をもたらすために国際社会に影響を及ぼすことはできなかつたのです。(2000 年 6 月 6 日の欧州議会の結果 要参照)

また、今後最も懸念される事項のひとつに、チベットの人々自身と北京政府への抗議キャンペーンを止めようとする支援者の混乱により、チベット問題への緊張が緩み、関心が次第に薄れていく心配があります。また、ダライラマ 14 世と亡命政府のメンバーの何人かが、中華人民共和国の WTO 加盟、2008 年のオリンピック開催を公に支援し、さらに亡命政府の首相であるサンドン・リンポチェは、青海-ラサ間の鉄道の開通をチベットの経済にとって有益なことだとコメントしていることもまた、緊張を緩ませる原因となっています。

われわれに課せられた今後の体制

支持—チベットの人々の悲願を実現するために、いままでそれぞれに繰り広げられていた支援と協力体制を、いままで何年もの間、チベット内部で常に完全独立を主張し続けてきた勇敢なアクティビストの主張のもと、完全独立運動として統一する。

これは、チベットの人々の完全自治の権利を基盤とする明確な戦略として、チュシ・ガンドゥック (2006 年 12 月) の国際会議と、Nations of High Asia(2006 年 9 月)の独立声明文で批准された主な項目。

一致団結—チベット同様、中国に不法に侵略された国々とともに、中国共産党の政策に、対する政治的、社会的な抵抗運動の一致団結。

基盤を築く—正当な自治の権利を基盤に、チベットで生活する人々の尊厳ある仕事、正当な報酬、組合活動の自由を保障する、自由な経済活動の基礎を得るための闘争。

要求—すべての自由民主国家に 2008 年のオリンピックのボイコットを呼びかける。

要請—国際連合 ONU に、チベット、東トルキスタン、内モンゴルの中国による不法な占領を処罰することを要請する。

要請—中華人民共和国が国際的なすべての協定を守ることを明言し、完全に遵守するまで、中国との『話し合い』の進展を欧州連合にサポートすることを要請する。

上訴—チベット問題において、中国がいまだになんら刑罰を受けていないことに関して、世界的裁決を国際法曹会に訴え続ける。

Torino , 26/5/2007

I° International Forum for Tibetan Freedom.

Jamyang Norbu , *Rangzen Alliance*

Wei Jingsheng , *Wei Jingsheng Foundation*

Claudio Tecchio , *Campagna di Solidarietà con il Popolo Tibetano*

Dhundup Namgyal Khorko , *Dhokham Chushi Gangdruk*

Tamding Choepel , *Tibet Culture House*

Chemey Yungdrung , *National Democratic Party of Tibet*

Mario Scotti , *Segretario Generale CISL Piemonte*

Alan Cantos y Jose Elias Esteve , *Comite de Apoyo al Tibet*

Larry Gerstein , *International Tibet Independence Movement*

Mathieu Vernerey , *Alternative Tibetaine*

Francois Bruxeille – Francois Corona , *Tibet Destination Rangzen*

Paolo Pozzo , *Comitato ISCOS Piemonte*

Bruno Portigliatti, *Unione Buddhista Europea*

Antonello Brandi , *Laogai Research Foundation Italy*

Angelo Montali , *Movimento Cristiano Lavoratori*

Palden Gyatso

Piero Verni

Claude B. Levenson

Antonio Attisani

Jean- Claude Buhner